

## 4 「道徳教育通信」というタイトルで作成しました

4つの視点を踏まえ、通信の作成に入りました。通信の題名は「道徳教育通信」としました。発行日、発行番号を記入できる場所を設けました。通信の大きさはA4判とし、短時間でも読めるよう文字の大きさや図を工夫しました。

作成にあたっては、道徳関係の著書、道徳研究校の実践等を参考にして進めました。常に教師のニーズを意識し、読んで実践してみたい内容に掲載しようと考えました。

各視点について10枚ずつ、合計40枚の試案「道徳教育通信」ができあがりしました。

この活用にあたっては、例えば、40枚ある「道徳教育通信」を1週間に1枚程度の割合で年間を通して定期的に発行したり、1学期に集中して発行したり、2学期以降は教師の実践の様子を紹介する通信を発行したりするなどの活用方法が考えられます。


### 道徳教育通信

道徳実践資料 No.  
平成 年 月 日

#### ジャガイモを使って授業をしよう

読み物資料を使った道徳の授業が多い中、ジャガイモのような具体物を使って道徳の授業をすることもできます。私たちは、他の人の人格を外見だけで判断したり、物事を先入観で判断したりすることがあります。例えば、「日本人だから」「男だから」「あいう人はこうなんだ」という見方にとられることです。そのことによって、人を傷つけてしまい、悲しい思いをしまうこともあります。ジャガイモを使った授業は、このようなことを少しでもなくすために、オーストラリアの人権教育の教材を参考にしてくられたものです。

<b>主 題 名</b>	ジャガイモと友だちになる
<b>ね ら い</b>	どんなものでも特性があり、決して同一ではないことを体験し、多様な個性を尊重しようとする態度を身に付ける。
<b>準備するもの</b>	ジャガイモ (クラスの人数分)
<b>授業の展開</b>	<p><b>導入</b> 「あいう人たちはみんなこうなんだ」と決めつけて言っていることはないか話し合う。</p> <p><b>展開</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ジャガイモとはどんなものか話し合う。</li> <li>(2) ジャガイモを箱の中から一個ずつ取る。</li> <li>(3) 「自分のジャガイモと仲良しになってください。この友だちは、どこで生まれどうやってここまで来たか、性格はどうか、姿はどうか、みんなに紹介できるようにメモを取り、いっ友だちになってください。」と指示する。</li> <li>(4) グループに分かれて、自分の友だちを紹介し合う。</li> <li>(5) グループごとに、ジャガイモを箱に一緒に入れてかき混ぜ、自分のジャガイモを見つける。</li> <li>(6) 大きな箱にクラス全員のジャガイモを入れ、かき混ぜて、自分のジャガイモを探す。</li> <li>(7) ジャガイモ探しの活動で気づいたことを話し合う。</li> <li>(8) 「あの人たちはみんなこうなんだ」と決めつけて考えることで失うものはないか話し合う。</li> </ol> <p><b>終末</b> 嫌いな人と決めつけていたが、自分から心を開くことで友だちになることができた話を聞く。</p>



この授業案は、「こうすればできる道徳の学習」(東洋館出版)に紹介されているもので、ジャガイモ以外にサツマイモ、ミカン、リンゴを活用してもできます。子どもたちにとっても楽しい授業が展開できると思います。

## 5 各学校で試案を活用してもらいました

作成した「道徳教育通信」が果たして校内の道徳研修に役立つのか、教師のニーズにあっているのか不安でした。そこで、この「道徳教育通信」を、

何人かにお願いして活用してもらおうことにしました。活用の際には、考えられるいくつかの方法を紹介しましたが、校内の実情もあるので、先生方の考えで進めてもらうことにしました。

約1年を経過した後、「道徳教育通信」の活用状況についてアンケート調査を実施しました。その結果、活用状況は左表の通りでした。

活 用 状 況	割 合
「道徳教育通信」を少しずつ印刷し、定期的に発行した	47.0%
個人で持っていて、道徳指導の参考にした	19.6%
「道徳教育通信」をまとめて印刷し、他の教員に全部渡した	13.7%
「道徳教育通信」を参考に自校の通信を作成し、発行した	11.8%
地区の道徳研究会の会員に配布した	7.9%